## 太極拳＆花見！

小川涼子

4月2日は午前中は日曜太極拳で、午後からは井原堤に花見に行きました。

参加者は9人。太極拳は普段やってない人がほとんどなので、練功十八法や五禽戯、入門八式太極拳などをやりました。岡輝公民館には大きな鏡があるので、みんなが一緒に楽しんで太極拳することができました。

午後からの花見は車3台に分乗して行きました。井原の桜は狭い土手の道に両側から咲いて、とてもきれいなトンネルを作ってくれていました。井原で太極拳をやっている方ともお会いして、お土産もいただきました。みんなで頌徳碑や内山完造の銅像の前で写真を撮りました。

次回の太極拳日曜練習会は5月7日です。岡輝公民館で、10時から、参加費500円。室内用運動靴が必要です。

---

## 「故小林軍治と第六次龍爪開拓団」その3　　近現代研究者　青木康嘉

前々回の記事で「2. 龍爪（りゅうそう）開拓団とは」が抜けておりました。青木先生には大変失礼なことをして申し訳ありません。お詫びの上、今回掲載させていただきます。順序が逆になったことをお許しください。（犬飼）

**2. 龍爪（りゅうそう）開拓団とは**

龍爪開拓団は、佳木斯（ジャムス）と牡丹江（ぼたんこう）の間で、ロシア（ソ満境）に向かう東安・虎頭へとつながる鉄道が連結している林口（りんこう）駅から一つ南に位置する龍爪駅（現在はない）付近にあった。当時の地名で言えば、東安省林口県龍爪郷（現：黒龍江省）である。標高五百メートルの龍爪溝嶺東側の緩傾斜地帯で「龍爪河」が近くを流れている。

1937（昭和 12）年の第六次龍爪開拓団である。拓務省の技師が軍の飛行機で調査し、良い土地と牧場に適しているとしてこの地を選んだ。この年、先遣隊が派遣され（父親小林光雄も参加）、翌年本隊が入植した。『満州第六次龍爪開拓団の足跡』によると、龍爪開拓団（団長和田章蔵）には、（裏面に続く）

日中
おかやま
題字 故原田 親
No. 995
2023/4/15
日中友好新聞
発行所
日本中国友好協会
〒111-0053
東京都台東区浅草橋3-2-3
鈴和ビル5階
電話 03(5830)2140(代)
FAX 03(5830)2141
http://www.jcfa-net.gr.jp
E-mail:nicchu@jcfa-net.gr.jp
振替 00110-1-21176
日中友好協会
岡山支部
〒700-0034
岡山市北区下伊福
西町1-53 民主会館1F
TEL・FAX(086)250-5806
日中友好協会
倉敷支部
〒712-8031
倉敷市福田町浦田2461-45
TEL・FAX(086)435-7800

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rizhongyouhao.iinaa.net/
メールアドレス
nicchuokayama@yahoo.co.jp

延べ 1254 人が入植した。山形・近畿各県・中国地方 14 府県出身者で構成されている村で、開拓団本部（村役場）・国民学校・東亜緬羊牧場・畜産学校・種鶏場・加工場・国立種馬場・龍爪神社・青年塾・開拓女塾などがあった。岡山県出身者は、龍爪駅近くの日の出郷・春日郷・上岡山郷と林口駅近くの八幡郷に居住していた。記録によれば、岡山県出身者は 229 人いた。一戸あたり、水田（4 町歩）畑（12 町歩）の土地配分を受けている。1945（昭和 20）年 5 月から 112 人の男性が現地召集を受けた。いわゆる「根こそぎ動員」であった。『満州第六次龍爪開拓団の足跡』によれば、龍爪開拓団の帰還者 575 人、死亡者数 637 人、孤児・婦人等未引揚者 65 人とある。生還率は約 40％である。女性と子どもが一番の被害者だったことは言うまでもない。

ここから前回の続き　**6．ハルビンから葫蘆島をへて帰国へ**の途中から

「1946 年 7 月引き揚げ協定が成立し、残留日本人の引き揚げが始まった。洋裁で食べていける自信はあったし、ハルビンに残ったらという誘いがあった。もし淑子が万が一死亡したら、子ども 3 人は生きていけないであろう。夫もいつか日本へ復員するだろう。やはり帰国しようと決心する。引き揚げが始まって、洋裁の仕事が急に増えた。引き揚げの時一人当たり千円限りという決まりがあった。そのために余ったお金で洋服を作った。リュックサックの注文も増えた。持って帰れないものは、写真、地図、本、宝石類などであった。幹雄は 8 歳、幸子は 6 歳、登紀子は 2 歳だった。（中略）無蓋貨物列車は、1か月もかかって 10 月 6 日、葫蘆島（コロ島）へ到着した。葫蘆島で滞在し、10 月 16 日佐世保港へ到着した。針尾島の収容所に入り、10 月 19 日に京都の実家である田中家へ戻った」

母の静恵の井原市稲木の実家へ戻り疲れを取った。この時に食べたコメのご飯のおいしさを忘れることはできないという。その後、父光雄の高梁市高倉の実家（伯父の家）の納屋で半年間借り住まいをした。軍治の弟が生まれた。そして、岡山市岡町に家を建て八百屋を始めた。ここは母が戦前働いた場所であり、親しみがある場所だった。

**7. 2005 年の龍爪開拓団訪問**

小林軍治が旅行記「緑の大地」に書いた文章を紹介する。

「私は、8 月 6 日から 12 日にかけて、2005 年「岡山県の開拓団を訪ねる日中友好の旅」に参加しました。訪問団は、高杉久治原告団長、奥津亘弁護団長、則武透弁護団事務局長、支える会事務局長の小生など、男性 12 名女性 4 名の 16 名でした。ガイド役は青木先生（岡山大安寺高校）でした。

私は、1942（昭和 17）年生まれた場所である龍爪開拓団の訪問を中心に報告します。22 年前の 1983（昭和 58）年 6 月に一度訪れています。今回はその時撮った写真と敗戦時の龍爪開拓団部落配置図と避難経路図を持参しました。その近くの人に 22 年前の写真二枚を見てもらいました。そこには、父が建てた家に住んでいた人とその友人が写っています。もう一枚には、本部前の母と娘さんが写っている写真を示し、その人たちと場所について尋ねました。しかし、写真を見てもらっても、その人も場所も知らないといわれ、近所の人に聞いても同じ返事でした。あきらめかけてバスで食事場所へ移動し始めようとしていました。その時である。熱心に住民の人に写真を見せて聞いてくれていた通訳の李さんから、「50 歳前後の婦人が写真に写っている老婆を知っている」といいました。その人は、「この場所でなく、線路の向こう側の集落である」といいました。食事の時間も気になりながら、その婦人に同乗してもらって案内してもらいました。集落の入り口で小さな橋を渡った。そこに連絡を受けた一人の老婆が立っていた。写真を見た老婆は、「これは自分だ」といいました。もう一枚の若い娘を知っていて、現在働いているお店（雑貨屋）に案内してくれました。そこで出会えた女性は、43 歳でした。「当時 21 歳の私です」といってくれました。私も、彼女の顔を見た時、面影が残っていて間違いないと確信しました。彼女の案内で「龍爪開拓団日の出郷開拓団本部前」に案内してもらい、記念写真を撮りました。22 年間で周囲の様子も変わり、写真に頼っての「家」捜しは大変でした。30 度を超す蒸し暑い中、約1時間共に行動に参加して下さった旅行団の皆さまには、とても感謝しています。皆さんが私の生まれた場所が見つかったことを共に喜んで下さり、同時に私もほっとしました。それ以上に、住民の皆さまの協力には、本当に口では表せないほど感謝の気持ちでいっぱいです。私の生まれた龍爪の人々は、温かい心の持ち主ばかりでした。今思い出しても幸せな気持ちになれる一時です。最後にこの地を訪ねてみて、ますます中国が好きになりました。そして、「中国残留日本人孤児」の存在が、日本の侵略によって生み出された不幸の象徴としてでなく、今後の日本と中国の友好の架け橋になることを願ってやみません。そのためにも、訴訟に勝利し、孤児のみなさんが「日本に帰ってきて、本当によかった」と思ってもらえるようにしたい。私は、日本に生きて帰った同世代の一人として、今後も「無告の民の語り部」として、がんばりたいと思います。そのことが、誕生の地の人々の温かさに答える道であると思っています。」

次回の新聞発送作業は
**4 月 28 日(金)午前 10 時半から**
民主会館 2 階で行います。
前回お手伝いくださった方です。
池田
貝吹
真田
竹内

今後の予定

| | | | |
|---|---|---|---|
| 4月 14 日(金) | 日中友好新聞発送作業 | 10:30～12:00 | 民主会館 |
| 4月 16 日(日) | 日中友好協会岡山支部理事会 | 10:00～12:00 | 岡輝公民館 |
| 4月 16 日(日) | 中国文化に親しむ会 | 14:00～16:00 | 岡輝公民館 |
| 4月 18 日(火) | 日中友好協会倉敷支部理事会 | 14:00～16:00 | 倉敷公民館第 1 会議室 |
| 4月 18 日(火)～20 日(木) | 中国帰国者問題写真と資料展 | 18 日　10:00～17:00 | |
| | 岡山市役所 1 階ロビー | 19 日・20 日　9:00～17:00 | |
| 4月 25 日(火) | 日中友好協会井笠支部準備会 | 14:00～16:00 | 出部公民館 |
| 4月 30 日(日) | 小林軍治さんをしのぶ会 | 13:00～16:00 | 岡山国際交流センター |